

| | | | |
|-----------|-------------|------|---|
| 講義名 | 地域交通政策 | | |
| 科目区分 | 学部フリーゾーン | | |
| 担当教員 | 森津 秀夫／岸野 啓一 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 火曜日 4時限 | 授業形態 | |
| 履修開始年次 | 3年生 | 単位数 | 2 |
| | | 備考 | |

| | | | |
|---|--|--|--|
| 主題と概要 | | | |
| 現代社会では交通と無関係な社会経済活動も日常生活もあり得ない。地域における問題を解決し、良好な地域社会を形成するために交通は大きな役割を果たしている。そこで、この講義においては、地域の人々の生活に根ざした交通にかかわる計画と政策に関して学ぶものとする。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 受講生は交通計画に関する基礎的な知識を取得し、地域交通問題に対する解決策を考える能力を身につけることが目標となる。 | | | |
| 提出課題 | | | |
| レポート課題もしくは演習、小テストを予定している。 森津担当に関しては、小テスト形式の演習課題およびレポート課題を課す。 岸野担当分（後半7回）に関しては、通常授業の場合は、講義時間中に演習課題を課す。 オンライン授業が継続している場合は、レポート課題を課す。 | | | |
| 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック | | | |
| 講義中に実施した課題に関しては、提出後の講義において講評・解説する。 | | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| 評価の基準 | | | |
| 授業参加度・演習・小テスト及びレポートに30～40%、定期試験に60～70%を目安として点数配分し、評価する。 森津担当に関しては、演習課題等が50%、レポート課題が50%として評価する。 岸野担当分に関しては、通常授業の場合は授業中の課題演習を30～40%、定期試験を60～70%として評価する。オンライン授業となった場合は、改めて周知する。 | | | |
| 履修にあたっての注意・助言他 | | | |
| 講義は教科書の項目にしたがって行います。すべての受講生が教科書を持ち、予習をしていることを前提として講義を進めます。教科書を購入し、予定箇所を十分に予習して講義に臨んでください。 森津担当分に関しては次のように講義を行います。 講義資料を「講義連絡」により配布しますので各自で学習してください。当該講義時には「レポート」機能を使って演習課題を配布、回収します。講義時間以降の提出はできませんので注意してください。 第8回までには同様にレポート課題を配ります。その際に提出期限も示します。 岸野担当分に関し、オンライン授業が継続している場合は森津講師担当分と同様の方法で実施します。 | | | |

| | | | | |
|------------|------|-------|-------|-------------------|
| 教科書 | | | | |
| . 交通工学総論 | 高田邦道 | 成山堂書店 | 2808円 | 978-4-425-92751-7 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|-----------------------------------|--|--|--|--|
| プリント資料及び参考文献 | | | | |
| 必要な際にはプリント資料を配布する。参考文献は担当教員が指示する。 | | | | |

| | | | | |
|----------------------------|--|--|--|--|
| 授業計画 | | | | |
| 第1回 「地域交通政策」講義概要／序章（担当：森津） | | | | |
| 第2回 国土計画と交通（担当：森津） | | | | |
| 第3回 モータリゼーション（担当：森津） | | | | |
| 第4回 高速道路（担当：森津） | | | | |
| 第5回 流通工学（担当：森津） | | | | |
| 第6回 CO2と交通（担当：森津） | | | | |
| 第7回 都市交通施策にかかわる駐車管理（担当：森津） | | | | |
| 第8回 公共交通システムと自動車（担当：森津） | | | | |
| 第9回 都市交通管理計画（担当：岸野） | | | | |
| 第10回 地区交通計画（担当：岸野） | | | | |
| 第11回 道路空間の有効活用（担当：岸野） | | | | |
| 第12回 交通事故半減プロジェクト（担当：岸野） | | | | |
| 第13回 シニア社会の交通システム（担当：岸野） | | | | |
| 第14回 お茶の間交通工学（担当：岸野） | | | | |
| 第15回 終章－交通工学とは（担当：岸野） | | | | |

| | |
|--|--|
| 授業形態（アクティブ・ラーニング） | |
| ア：PBL（課題解決型学習） | |
| イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） | |
| ウ：ディスカッション、ディベート | |
| エ：グループワーク | |
| オ：プレゼンテーション | |
| カ：実習、フィールドワーク | |

| | |
|---|--|
| 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 | |
| 授業計画を参照して教科書の予定箇所を予習して講義に備えること。講義終了後には当該箇所を十分に復習すること。講義内容に関する事後確認と下調べに毎回4時間程度をかけることを目安とする。なお、レポート作成もこの中に含む。 | |

| | |
|-------------------------------|--|
| 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述 | |
| | |

| | |
|---|--|
| 実務経験の有無及び活用 | |
| 実務経験あり（岸野） 国や地方自治体との業務において授業に関連する内容にかかわった経験がある。実務を通じて得た知見などを授業で伝えることにより、授業内容に対する理解を深めたい。 | |

| | |
|-----------|--|
| 備考 | |
| | |